

横浜市 生成AI利活用 ガイドライン(暫定版)

Version 0.1

デジタル統括本部 企画調整課

1 はじめに

- 1.1 本ガイドラインの目的
- 1.2 本ガイドラインが対象とする範囲

2 利用にあたってのルール

- 2.1 利用条件
- 2.2 データを入力する際の注意事項
- 2.3 生成された回答を利用する際の注意

3 活用方法

- 3.1 有効な活用分野
- 3.2 プロンプトの例

参考：プロンプト集



1.はじめに

1.1 本ガイドラインの目的

(1)本ガイドラインは、横浜市職員が業務で生成AIを利用する際に注意すべき事項を解説したものです。よく読んでいただき、生成AIを利用してください。

(2)生成AIは、業務効率の改善や新しいアイデア出しなどに役立つ反面、入力するデータの内容や生成物の利用方法によっては法令に違反したり、他者の権利を侵害したりする可能性があります。

(3)本ガイドラインは試行利用に向けたものであり、今後適宜改定します。



1.はじめに

1.2 本ガイドラインが対象とする範囲

(1)生成AIの範囲

- ・本ガイドラインにおける生成AIとは、デジタル統括本部企画調整課が試行導入する「Azure OpenAI Service」を指します。
- ・試行利用結果を踏まえて、本市全体での利活用に向けて本ガイドラインを改定します。試行利用期間は、その他の生成AIサービスの業務利用は禁止とします。

(2)本ガイドラインの対象となる組織

- ・本ガイドラインの対象となる組織は市長部局とし、企業局・行政委員会事務局・議会局は対象外とします。
- ・試行利用の対象は、デジタル統括本部及び総務局の一部職員とします。



2. 利用にあたってのルール

2.1 利用条件

- (1) 横浜市情報セキュリティポリシーをはじめとしたルールを遵守してください。
- (2) 利用にあたっては、所属長に「生成AI試行利用研修の受講許可」及び「生成AIの利用許可」を取ってください。
- (3) 生成物の内容に誤りや偏りが含まれている可能性があることに十分留意ください。
- (4) 生成物を利用する行為が他者の権利を侵害する可能性があることに十分留意ください。



2. 利用にあたってのルール

2.2 入力不可のデータ及び留意すべき事項

(1) 個人情報を含む機密性2及び機密性3以上の情報は、入力不可とします。

公開情報	未公開情報		非公開情報
	公開可	公開不可	
○	○	✕	✕
Webサイトに載せている内容等	公開可能な議事録 ※非公開情報が含まれる議事録も、該当部分を塗りつぶしの上であれば可	これからの記者発表	個人情報・機密情報 非公開の議事録

(2) 第三者が著作権を有するデータ、登録商標、意匠の入力に留意ください。

類似の物を生成させる目的（依拠性）を持って入力すると、著作権等を侵害するおそれがあります。



2. 利用にあたってのルール

2.3 生成物の利用に際して留意すべき事項

(1)生成物を取捨選択・修正加工せず、外部へ公開することや、答弁資料として使用することなどの第三者提供は禁止とします。

(2)第三者提供の有無に限らず生成物を利用するにあたっては、複数の職員で生成物の正確性・妥当性を確認し、内容の取捨選択・修正加工を行ってください。



3. 活用方法

3.1 効果的な活用方法

生成AIを効果的に活用するには、次の2点を意識してください。

(1) 使用目的

- ・ 生成AIの利用が適している使用目的と、適していない使用目的があります。

(2) 指示（プロンプト）の書き方

- ・ 生成AIの回答は、与える指示（プロンプト）の書き方によって大きく変化します。
- ・ 指示（プロンプト）を工夫することで、より効果的な回答が得られます。



3. 活用方法

3.2 使用目的の例

向き/不向き	使用目的の例	具体的な使用目的
向いている目的 (生成AIが得意なこと)	①文書作成の補助	■通知文、メール、あいさつ文等の原案作成 ■校正や表現の変更の依頼 ■翻訳
	②文書の要約	■通知、論文、記事等の要約 ■議事録の作成 ■自由記述アンケート等の分類・要旨把握
	③アイデア出し	■イベントや研修等の企画・アイデア出し ■考えの整理（壁打ち） ■ペルソナ分析
	④アプリ・システム 利用の補助	■エクセル関数、マクロ、VBA等の生成 ■その他プログラム作成の補助 等
不向きな目的 (生成AIが不得意なこと)	⑤検索	■特に最新情報や正確性が必要な情報の検索

※上記は一例ですので、使い方を工夫してみてください。

※使用目的に疑問や不明点がある場合は、企画調整課まで随時ご相談ください。

3. 活用方法

3.3 指示(プロンプト)のポイント①

(1)具体的に詳しく指示する

例えば、文章要約では、「100字以内で」と具体的な条件を出す。

(2)繰り返し質問する

一度の質問だけで意図した回答が得られない場合は、生成された回答に対して掘り下げる、あるいは要素を追加するプロンプトを続けて投げかけることも有効です。

3. 活用方法

3.3 指示(プロンプト)のポイント②

(3)生成AIが理解しやすい構成にする

次のように、「指示」と「条件」と「入力文」などが明確な構成でプロンプトを作成することで、AIがプロンプトの意図を理解しやすくなり、より良い回答が得やすくなります。

【プロンプトの例】

以下の入力文を条件に従って添削してください。

条件

- ・ 添削後と添削理由を出力してください。
- ・ 分かりやすく簡潔に、だ・である調の文章に変換してください。

#入力文

(添削したい文章を入力)

3. 活用方法

3.3 指示(プロンプト)のポイント③

(4)生成AIに役割を与える

生成AIに「あなたは～です。」と役割を与えることで、より良い回答を得ることができます。

【プロンプトの例】

あなたは経験豊富で優秀なファシリテーターです。以下の議論を円滑に進めるアイデアを挙げてください。

議論のテーマ

「生成AIの業務での活用方法について」

①文書作成の補助

指示（プロンプト） の例	<p>市役所の他部署に対して、交付金の活用を打診する際のメール文案を考えてください。 次のメリットが伝わるようにしてください。</p> <p># メリット</p> <ul style="list-style-type: none">・ 交付金を活用することで、他の事業で一般財源を活用できる・ 申請にあたっては、デジタル統括本部企画調整課が支援する。
AIの回答例	<p>件名：交付金の活用に関する打診</p> <p>拝啓、〇〇市役所 〇〇部署の皆様</p> <p>私たち△△企画調整課から、交付金の活用についての打診がございます。貴部署がお取り組みの他の事業において、一般財源を有効に活用する機会を提供することができます。</p> <p>交付金の活用によるメリットは以下の通りです：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 一般財源の活用：交付金を活用することで、貴部署が他の事業において一般財源を有効に活用することが可能です。これにより、限られた予算の中で効率的な事業展開が可能となり、より多くの成果を上げることができます。2. 支援体制の提供：交付金の申請にあたっては、デジタル統括本部企画調整課が皆様を支援いたします。我々は豊富な経験と専門知識を持つチームであり、貴部署の申請手続きや必要書類の作成などをサポートいたします。迅速かつ円滑な申請プロセスを実現するために、貴部署の担当者との緊密な連携を図ります。 <p>是非とも、交付金の活用についてご検討いただき、貴部署の成果向上にお役立てください。ご不明点やご質問ございましたら、お気軽にお知らせください。引き続き、貴部署の発展とご活躍を心より応援しております。</p> <p>敬具 △△企画調整課</p>

②文書の要約

指示（プロンプト） の例

次の文章を50文字で要約してください。

デジタル化の進展は、スマートフォンからの様々な情報やサービスの利用、多くの人とのつながり、手続や作業の自動化など、私たちの生活を、時間と場所の制約から解放し、便利で豊かなものになっています。今後、必要なサービスが、必要な時、必要な場所で、自ら考え選択することなく届けられる「手続がまるで空気のような世界」が実現することも、決して夢物語ではありません。デジタルの恩恵を、限られた人や地域だけでなく、すべての市民、地域に行きわたらせ、実感あるものとし、真の意味でデジタルの持つ力を、都市の魅力につなげていくことが大切です。市民には、子どもや高齢者、子育て世代、障害のある方、外国人の方など、それぞれ異なるニーズがあります。デジタル技術を活かし、デジタルを必ずしも得意としない方にも寄り添いながら、一人ひとりに利便性の高いサービスを効率的に届けていきます。地域には、少子高齢化やグローバル化に加え、デジタル化が進行する中で、時代にあったコミュニティの創造が必要となっています。これまで築いてきた「温もりあるつながり」を大切にしつつ、デジタルのメリットを最大限に活かした「新しいつながり」で、見守り、助け合い、安全安心など連携による地域力向上を図ります。都市には、暮らしやすさ、魅力づくりにデジタル技術をどう活かすかが求められています。都心部、郊外部それぞれの課題解決と新たな価値創造に向け、多様な主体と連携しデジタルの実証から実装へとつなげ、住みやすく、働きやすく、活気ある横浜、訪れてみたい魅力ある横浜を創造します。私たちは、「デジタルの恩恵をすべての市民、地域に行きわたらせ、魅力あふれる都市をつくる」ことを目的として、「デジタル×デザイン」をキーワードに4つの視点とデザイン思考により取組を重ねて、DX戦略を進めます。

AIの回答例

デジタル化により、私たちの生活は制約から解放され、便利で豊かなものになっている。将来は、必要なサービスが必要な時と場所で提供される世界が実現する。デジタルの恩恵をすべての市民や地域に行きわたらせ、デジタルの力を都市の魅力に結びつけることが重要。個々のニーズに合わせた利便性の高いサービスを提供し、地域の連携による力を向上させる。都市の魅力をデジタル技術で創造し、住みやすく、働きやすく、活気ある横浜を作るために、デジタル×デザインをキーワードに取り組む。



③ アイデア出し

指示（プロンプト）
の例

生成AIの活用メリットについて、次の点に触れつつ、3つ箇条書きして下さい。

- ・費用対効果
- ・セキュリティリスク

AIの回答例

・費用対効果：AIの活用により、効率化や自動化が可能となり、従来の人手による業務を削減することができます。これにより、コスト削減や生産性の向上が期待できます。

・セキュリティリスク：AIは膨大なデータを処理し、予測や意思決定を行うため、セキュリティ上のリスクも存在します。しかし、AIの専門家による適切なセキュリティ対策やモデルのトレーニングにより、リスクを最小限に抑えることが可能です。

・生産性向上：AIは高速で正確な情報処理が可能です。これにより、従業員の作業負担を軽減し、生産性を向上させることができます。また、AIによるデータ解析や予測により、効果的な意思決定を行うことができます。



基準日の次の給与支給日を表示する関数

④アプリ・システム利用の補助

指示（プロンプト）
の例

Microsoft Excelで次の条件の関数を作成してください。

- ・ 基準日はセルB2に入力されている。
- ・ 基準日の日が21日以前の場合は、基準日の属する月の21日を表示する。
- ・ 基準日の日が21日より後の場合は、基準日の属する月の翌月の21日を表示する。

AIの回答例

以下のような関数を作成することで、基準日に応じて条件に応じた日付を表示することができます。

```
=IF(DAY(B2) <= 21, DATE(YEAR(B2), MONTH(B2), 21), DATE(YEAR(B2), MONTH(B2) + 1, 21))
```

この関数は、まず基準日の日をDAY関数を使って取得し、IF関数を使って条件分岐しています。基準日の日が21日以前の場合は、基準日の属する月の21日を表示し、基準日の日が21日より後の場合は、基準日の属する月の翌月の21日を表示しています。

生成内容の正確性は必ず検証しましょう。



⑤検索

指示（プロンプト）
の例

2023年12月現在の神奈川県知事を教えてください。

AIの回答例

2023年12月現在の神奈川県知事は、私のデータベースには情報がありません。最新の情報を入手するためには、公式のニュースや神奈川県のウェブサイトなどをご確認ください。

- ・ 今回の実証のモデルは、2021年9月までの情報のみ学習しており、最新情報は答えられません。
- ・ また、2021年9月以前の情報であっても、誤りが含まれる可能性があります。



改訂履歴

版数	発行日	改定内容
0.1	2023年12月18日	試行利用に向けた暫定版制定